

令和元年7月31日

守谷市議会議長 殿

委員長： 寺田 文彦

報告者： 砂川 誠



## 都市経済常任委員会 視察・研修報告

標記の件について、次のとおり実施したので報告します。

視察・研修日	令和元年7月19日（金）
視察・研修場所	長野県安曇野市役所 社会福祉協議会（受付センター見学）
視察・研修項目	「新・交通システム あづみん」について
参加者	守谷市側 寺田委員長、渡辺（秀）副委員長、砂川委員、堤委員、高梨（隆）委員、伯耆田委員、梅木委員 生活経済部 岩田部長、議会事務局 岩地係長
	相手側 市議会 内川副議長、 政策部政策経営課 交通係 蓮井係長、丸山主査
視察・研修目的	地域の一体感を醸成する交通システム実現を目指した、安曇野市地域公共交通網形成計画の作成と実施に係る取り組みの経験、知識を今後の守谷市の取り組みに生かしたい。
視察・研修内容	「あづみん」につて政策経営課交通係からの説明と質疑 社会福祉協議会にて受付センターの見学
視察・研修総括 （今後の取組み等）	地域間の交流や連携を推進する新たな公共交通システム確立を目指した検討会を設置し、ワークショップ等の各地域の意向を十分に反映しながら地域公共交通総合連携計画のもと実証運行や調査検討を行ってきた。実際に利用する住民の意向、地域の声（1000件を超えるアンケート）を 実態調査と共に反映させた取り組みは参考になる。

## 視察・研修内容

### 【安曇野市の概要】

長野県のほぼ中央に位置。人口約 98,000 人、面積 331.78 ㎡  
特産品としては、米、ワサビ、ニジマス等がある。

<地域の一体感を醸成する交通システム実現を目指す>

#### ◆構築の経緯と現在までの取り組み

- ・合併当初、旧町村単位で独自の交通施策。連携が取れていないため、地域間の連携を推進する交通システム確立が課題となる。
- ・国交省の総合プログラム事業を活用し、「あずみん」の愛称で 14 台の乗合タクシーを中心とした運行を開始。
- ・地域公共交通協議会設立。総合計画の作成、3 年間の実証運行や調査検討実施

#### ◆検討段階での取り組み

- ・アンケート調査やワークショップ等を通じ住民の意向を丁寧に拾う。
- ・利用状況調査、交通実態調査の実施。

### 【公共交通システム検討会における調査検討】

#### ・検討体制

アンケート実施（データ収集） ⇒ 検討会（学識経験者、住民代表、交通事業者、各種団体代表、市） ⇒ ワークショップ実施（分析・報告、情報提供）

#### ・アンケート結果・課題

5つの地域に分け、地域ごとに意見・要望を集約。各地域間への動線調査。

#### ・調査検討会

検討案の作成 ⇒ 地域別に、コミュニティバス運行・デマンド運行案

#### ・財政シミュレーションの実施

支出額、収入額の算出で予算内で運行可。全市として高利便性。

#### ・実証運行における車両配置の大枠を決定

各地域における、共通エリア・定時定路線・応援車両の担当エリアをイメージ  
市内全域から直接乗り入れられる共通乗入れエリアの設定。

#### ・運行車両

16 台中 9 台は合併特例交付金で購入。事業者は無償貸与。

### 【運行状況 概要】

定時定路線 6:40 分ごろ～ ⇒ デマンド交通 8:00～17:00 ⇒ 定時定路線  
17:00 頃～

- ・定時定路線（大人 200 円、小中高生・障がい者 100 円、予約不要）  
主に通勤、通学者が利用
- ・デマンド交通（中学生以上の大人 300 円、小学生・障がい者 100 円、要予約）  
8：00～17：00 の市内全域運行、電話予約。

#### 【あづみん運行状況】

- ・30 年度利用者数 86.273 人
  - ・年代別利用者数 60 代以上が約 7 割  
あづみんの従来の目的：車の運転が出来ない障がい者、高齢者の交通確保。
  - ・実利用者数 減少傾向
  - ・一人当たりの利用回数 増加傾向
  - ・時間帯別利用者数 9 時、10 時、16 時に集中
  - ・最も多い乗降場所 スーパー、病院、福祉施設
- \* 運転免許証返納者の推移  
28 年度から増加傾向。あづみん無料チケット 30 回分交付。返納者への支援により公共交通への転換を図る手伝い。

#### 質疑応答

- Q, 実利用者数が減少しているのに、一人当たりの利用回数が増加しているのは何故か。
- A, 過去利用した方で、自家用車とデマンド交通と比べた場合に自由な行動が損なわれ、やや不満を感じた方がその後利用を控えた半面、ヘビーユーザーが増えている。
- Q, 利便性が損なわれている要因は。
- A, はっきりした到着時間が読めない事。デマンドは時間的に使い勝手が悪いというイメージがあるのでは。
- Q, 運行の見直しを行った地域があるが、住民の反応は。
- A, 30 分 2 回の運行を 1 時間 1 回に見直したが、事前に十分な説明を行ったので大きな苦情はなかった。1 回 1 時間運航にすることで、予約取り消しを減らせて、運行対象人数を増やし余った車両 1 台を他の地域に回せた。
- Q, 民業圧迫にならなかったのか。また調整はどの様にしたのか。
- A, 民間からの反発はありました。あづみんは予約受付業務は、社会福祉協議会へ委託し、運行業務は市内のタクシー業者 3 社に地域公共交通協議会が委託をしている。元々タクシー会社は客が少ない代わりに、あづみんは料金は安いですが定期的に収入があるので圧迫にはなっていない。しかし、時間単価を少し上げてもらえないかとの要望はある。
- Q, 定時定路線の便で客が多くて乗り切れない場合の対応は。
- A, 乗り切れない場合は、タクシー会社に応援をおねがいしている。
- Q, デマンド交通の初めての利用者等の乗降に時間がかかることに苦情はないのか。

A, たまにあります。デマンド交通なので、時間に余裕を持って頂きたい旨を説明している。時間どおりを希望する場合は、タクシーを奨めている。

Q, 民間の路線バスは運行していないのか。

A, 松本市寄りの山間部で一部混在しているが、あづみんと時刻表で繋がっている。その部分は国の補助が出ている。